

おおこうち内科クリニック

〒495-0015 稲沢市祖父江町桜方上切6-7
TEL 0587-97-8300
<http://www.okochi-cl.com/>

溶連菌感染症



<溶連菌感染症とは>

溶連菌という細菌がのどに感染して、のどの痛み、熱、体や手足の発疹、嘔吐などの胃腸症状が出ます。舌はイチゴのようになります(すべての症状が揃うわけではありません。)。ヒトからヒトにうつる病気です。

溶連菌感染症のあとにリウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすことがあるので、きちんとした診断と治療が不可欠です。

溶連菌は何種類もあるので、何度でもかかります。溶連菌がのどの粘膜に付着しやすい体質のお子さんは繰り返しかかります。



<治療>

のどの検査で溶連菌がいることがはっきりしたら、抗生剤を7-10日間飲みます。1日か2日で熱が下がり、のどの痛みも消えます。でも途中でくすりをやめると再発します。くすりをきちんと飲まないとしらみ熱や腎炎をおこすことがあるので、指示通りに最後まで飲むことが大切です。



<検査>

溶連菌感染症のあとに急性糸球体腎炎を起こすことがあるので、血尿、蛋白尿の有無を調べる必要があります。溶連菌に感染して、2週間後と4週間後の2回尿検査が必要です。



<家庭で気をつけること>

- (1)家族にもうつる:家族内でピンポン感染をすることがあるので、ご兄弟に抗生物質を飲んでもらう場合があります。大人は溶連菌にはかかりにくいので通常は両親の除菌は不要ですが、感染することもあります。大人がかかると「ものすごく喉が痛くなる」ので、症状ある場合にはお知らせ下さい。
- (2)食べ物:のどの痛いときは、熱いものや辛いもの、すっぱいものは避けましょう。
- (3)入浴:熱がなければかまいません。



<こんなときはもう一度診察を>

- (1)2日以上たっても熱が下がらないとき。
- (2)のどの痛みが強くて水分を飲まないとき。
- (3)吐いたり、ぐったりして、水分を飲まないとき



<保育所・学校>

1-3日後の指定された日にもう一度受診して、医師の許可をもらってから登園、登校してください。